

てく Take ちゅう Walking 28

『お仕事拝見！』

今回は中央区を飛び出して、南区にある公益財団法人北海道盲導犬協会を訪問し、具体的な事業内容についてお話を伺いました。

1 盲導犬育成事業

昭和45年に協会が設立されてから、現在までの47年間で育成してきた盲導犬の数は532頭に上り、現在の実動数は92頭となっています。

年間60〜65頭の盲導犬候補となる子犬が生まれ、生後50日から約1年間、パピーウォーカーに預けられて愛情をたっぷり注がれて育ちます。

その後、訓練を受けられるかどうかの適性評価を行うのですが、この段階で約半数に絞られます。盲導犬にならなかつた私たちは、介助犬として別の機関で訓練されたり、一般家庭で飼育されるそうです。

適性ありと判断された犬たちは、10月から翌4月まで、約7か月にわたり訓練を受けます。訓練は、まっすぐ歩く、交差点で止まる、障害物を避ける、目的物を探す、危険を察知するなど多岐にわたります。色々な経験を積むために、実際の環境を

使って訓練を行います。積雪地である北海道の特性上、雪道の歩行訓練も欠かせないとお話でした。

7名の訓練士が、日々勉強や研究を重ね、一頭ごとの個性に合わせる形で訓練をしているそうです。また、候補犬の育成や管理には、訓練士のほかにも職員やボランティアの方など、様々な人が関わっています。

訓練を終えて最終的に盲導犬となるのは年間12〜15頭。協会の建物で盲導犬とユーザーが泊り込みの訓練を行い、歩行ルールや適切な飼育方法について学んだ後、貸与され、共同生活が始まります。

盲導犬は、12才までの間に引退します。引退後は、一般家庭や、協会内にある老犬ホームで生活しているそうです。



共同訓練の際にユーザーと盲導犬と一緒に生活する部屋。ベッドの足元に盲導犬用の寝床が設置されます。

2 生活訓練事業

「盲導犬協会」という言葉を聞くと盲導犬の育成のみを行っているものと思いがちですが、見えない、見えづらいといった視覚に不安を抱えた方のための生活訓練事業も行っているそうです。

年間で、道内各地から20名程度の方が入所し、3週間の生活訓練を行っています。その他に、病院の看護師からの連絡を受けて訪問し、相談など

を行っているとのこと。

訓練の内容は、白杖の使い方や調理の訓練、スマートフォン等の使用法など様々で、視覚障がいの方の自立支援を目指しています。

生活訓練により生活基盤が安定した後、次のステップとして盲導犬を希望される方も多いようです。

最後に、協会の方から盲導犬、視覚障がいの方に対して配慮して欲しい点について伺いました。

「盲導犬と聞くと、我慢強く何をしても動じないといったイメージを抱く方もいらっしゃると思いますが、盲導犬も感情のある動物です。働いている盲導犬に声をかけたり、えさをあげたりすると仕事に集中できなくなってしまうため、仕事中的盲導犬を見かけたら暖かく見守っていただければ



老犬ホームで暮らす引退後の盲導犬。穏やかな表情です。

と思います。また、盲導犬はカーナビのように自動でどこへでも連れて行ってくれると考えている方もいらっしゃると思いますが、実際には視覚障がいの方の指示によって動いています。盲導犬を連れた視覚障害の方が困っている様子を見かけたら声をかけて手助けしていただけると幸いです。」

〈問い合わせ先〉005-000300

札幌市南区南30条西8丁目1番1号

公益財団法人北海道盲導犬協会

電話 011-5882-8222

FAX 011-5882-7715